

## 2012年 感染症発生動向調査 (患者発生動向)

### — 全数把握感染症 —

中山 淳一郎 真田 正稔

Annual Report of Surveillance of Notifiable Infectious Diseases in Kyoto Prefecture, 2012

Junichirou NAKAYAMA Masatoshi SANADA

2012年の京都府全体における全数把握対象76感染症中23感染症で956人の患者報告があり、そのうち京都府内(京都市を除く)の保健所管内(以下、「京都府内」と記す)からの報告は381人であった。京都府全体では結核744人、腸管出血性大腸菌感染症54人、風しん36人、アメーバ赤痢21人、レジオネラ症17人、梅毒12人の順に多かった。この報告感染者数の順位は、近畿2府4県及び全国の傾向と類似していた。2012年の特徴として、1つ目は風しんの報告例が例年より多かった。2つ目として京都府全体の結核患者数が増加したことが挙げられた。

キーワード：京都府、調査、全数把握感染症

key words : Kyoto, surveillance, Notifiable infectious disease

### はじめに

感染症発生動向調査の患者発生動向調査は、日本国内の感染症サーベイランスシステムの1つであり、1999年4月から、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」の施行により、法令に位置づけられている。京都府では、保健環境研究所内に感染症情報センターを設置し、医療機関から保健所に報告された感染者の発生動向情報を集計し、その解析結果を毎週公開している\*1。

全数把握感染症とは、医師または獣医師が感染症と診断したときに厚生労働省令で定める内容を最寄りの保健所長を通じて都道府県知事に届け出ることが義務づけられている感染症(2013年4月現在)を指す。病気の重篤度、感染力、感染経路などにより、1類から5類感染症と指定感染症に分類されている。

本資料では2012年第1週から第52週までに保健所から報告され、2013年3月までに確定した全数把握感染症について、その患者発生動向をまとめ、報告する。

### 材料と方法

感染症発生動向調査システム(NESID: National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases)で集計され、2012年第1週から第52週までに保健所を経由して医療機関から届出があり、2013年3月までに確定した感染者情報を使用した。

(平成25年7月31日受理)

\*1 京都府感染症情報センターホームページ  
<http://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

当該感染症の感染率は、国や京都府の推計人口\*2を用いて、人口10万人あたりの感染者数を計算し求めることとした。

### 結果と考察

#### 1. 概要

京都府における全数把握対象感染症の感染者数を保健所別に表1に示し、併せて近畿2府4県と全国の結果も示した。京都府全体では、2012年に76感染症中23の感染症で956人の感染者報告があり、その内訳は京都府内381人、京都市575人であった。保健所管内ごとの報告数は、人口と相関関係にあり(図1)、本サーベイランスが適切に実施されていることが確認できた。

1類感染症は、京都府を含む全国で報告はなかった。

京都府全体の2類感染症感染者数は、結核744人で2011年の717人と比べてやや増加した<sup>1)</sup>。急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ(H5N1)の報告はなかった。3類感染症の感染者数は、細菌性赤痢2人、腸管出血性大腸菌感染症(以下「EHEC症」と記す)54人、バラチフス2人の報告があった。コレラ、腸チフスの報告はなかった。4類感染症の感染者数は、A型肝炎4人、オウム病1人、つつが虫病1人、デング熱7人、マラリア2人、レジオネラ症17人の報告があり、その他の報告はなかった。5類感染症の感染者数は、アメーバ赤痢21人、ウイルス性肝炎6人、急

\*2 推計人口資料

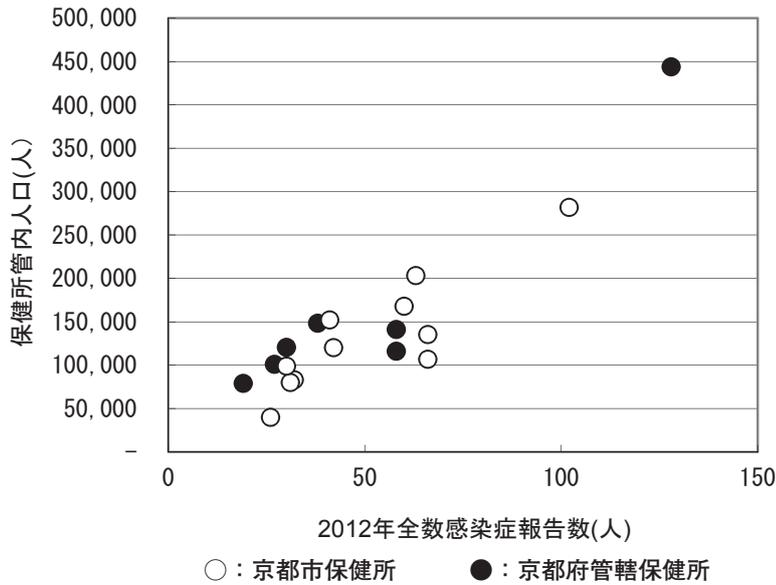
京都府：2013年4月1日現在の京都府推計人口  
<http://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/suikijinkou/suikeifiles/jikei.xls>

国：総務省統計局の平成22年国勢調査の速報資料  
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/jinsoku/zuhyou/jinsoku.xls>

表 1. 2012 年の感染症発生動向調査 全数把握感染症の保健所別報告感染者数

感染症名	保健所別報告感染者数														京都府 (京都市を除く)	京都市	京都府 全体	近畿 2府4県	全国					
	乙訓	山城	中丹	山北	中丹	丹後	京都市							西京										
							上京	左京	中京	東山	山科	下京	南区							右京	伏見			
1類 エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
2類 急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
結核	34	53	17	105	46	19	18	37	21	49	27	17	62	28	29	57	93	31	292	452	744	4,521	28,951	
ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3類 コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
細菌性赤痢	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	42	214	
腸管出血性大腸菌感染症	0	2	0	10	2	8	5	2	3	1	11	2	0	0	1	3	3	1	27	27	54	471	3,765	
腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	36	
パラチフス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	6	24	
4類 E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	119	
ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
A型肝炎	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	23	158	
エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	17	
黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
オウム病	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	8	
オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
つつが虫病	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	10	436	
デング熱	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	7	7	55	221	
東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ニバウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	170	
日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	10	73	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	1	0	2	1	3	1	2	1	0	1	0	1	0	0	1	2	1	10	7	17	142	898		
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	30	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5類 アメーバ赤痢	1	1	0	1	2	0	1	1	2	2	2	1	1	0	0	0	0	5	6	15	21	157	931	
ウイルス性肝炎	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6	54	235		
急性脳炎	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4	4	8	44	361		
クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	2	7	28	183		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	3	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	3	6	9	25	243		
後天性免疫不全症候群	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	5	0	1	0	0	0	1	2	9	11	265	1,427		
ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	19	72		
髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	15		
先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5		
梅毒	0	0	0	2	0	1	1	0	3	0	3	0	0	0	0	1	0	4	8	12	142	891		
破傷風	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	3	8	117		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	5	23	91		
風疹	2	2	0	3	2	1	0	0	3	6	9	1	0	2	0	1	3	10	26	36	768	2,391		
麻疹	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	23	285		
指定感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

京都市のデータは保健センター別に示した。



○：京都市保健所 ●：京都府管轄保健所

図1. 保健所管内人口と全数感染症報告数の関係

性脳炎8人、クロイツフェルト・ヤコブ病 7人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9人、後天性免疫不全症候群11人、ジアルジア症1人、髄膜炎菌性髄膜炎1人、梅毒12人、破傷風3人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症5人、風しん36人、麻しん2人の報告があった。クリプトスポリジウム症、先天性風疹症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告はなかった。また、指定感染症等の報告はなかった。

表2は、京都府内、京都市及び京都府全体のそれぞれで報告された感染症を感染者報告数の多い順に上位10感染症を並べ、患者数と感染率を示した。また、比較対象として近畿2府4県と全国総計を示した。表3は保健所別に感染率を示した。京都府内と京都市の感染率を比較すると、都市域で発生が多いとされる結核、風しん、後天性免疫不全症候群、アメーバ赤痢などは京都市で多く、京都府内では少ない傾向であった。デング熱、マラリア、ジアルジア症などは、京都市のみの報告であった。

## 2. 2012年に発生した感染症の特徴

2012年の麻しんは、京都府内、京都市で各1人報告があった。京都府内で発生した麻しん患者は、40歳女性の修飾麻しん（不完全な免疫で麻しんウイルスに感染し、麻しんの一部症状のみがみられる）であった。2008年の京都府全体における報告数は193人であり、そのうち京都府内における報告数は87人であった（内、60%は成人麻しん<sup>2)</sup>。しかしながら、患者数は2010年11人、2011年3人と激減している<sup>1,3)</sup>。2012年はさらに減少して2人となっており、小児の報告はみられなかった。麻しんは、正確な情報把握のために2008年1月から全数把握感染症に新たに指定された。世界保健機関（WHO）西大西洋地域は、2012年度までに麻しん排除を掲げ、対策を講じてきたが、新たな定義が設けられた。現状を考慮し、2015年度までにWHOによる麻しん清浄国の認定を受けかつ

その後も排除の状態を維持することを新たな目標として掲げた。今後も発生動向を注意深く見守る必要がある。

急性脳炎は、2012年に京都府全体で8人の報告があり、京都府内で報告があった4人は、インフルエンザA型（亜型不明）による1歳と2歳の女児2人、7歳の男児1人と原因不明の1歳男児であった。

A型肝炎は2010年3月を中心に全国的にdiffuse outbreakが観測された<sup>2)</sup>後、2011年京都府内の報告は、インドで感染した30歳男性の1例のみであった<sup>1)</sup>が、2012年はインドネシアで感染した30歳男性、国内感染した41歳男性と80歳女性の3名に増加した。

### 2-1. 結核

結核は、2007年4月1日に感染症法で全数把握が必要な2類感染症に追加され、NESIDには感染症法で定められた届け出基準により、2007年14週から新たに結核菌の感染が確認された感染者の情報が集約されている。最近の4年間では2009年266人<sup>4)</sup>、2010年225人<sup>3)</sup>、2011年253人<sup>1)</sup>、2012年292人が結核感染と診断された。結核の罹患率（人口10万人あたりの新登録患者数）は横ばい状態が続いており、特徴として地域差が非常に大きく、都市でより高い傾向をみせる。京都府内の結核発症者数及び感染率は女性に比べ男性が多く、2012年の結核発症者数で比較すると2.1倍であった。一方、無症状病原体保有者は男性に比べ女性が多く、2012年の無症状病原体保有者数で比較すると3.0倍であった。

図2では、4年間における京都府内の結核感染者を男女別に5歳ごとの年齢階級に分けて示した。結核感染者は年齢階級別に、2012年京都府内の感染者と2012年の全国の結核感染者の年齢別感染率を比較し、表4に示した。全国の70歳以上の結核発症者の割合が56.1%と半数以上を占めていた。京都府内の70歳以上の結核発症者も61.9%と半数以上を占める結果となり、特に、80歳

表 2. 2012 年全数把握感染症患者発生感染症の上位 10 感染症感染率と全国、近畿 2 府 4 県との比較

京都府内(京都市を除く)			京都市		京都府全体			
順位*	感染症名	感染率** (患者数***)	順位	感染症名	感染率 (患者数)	順位	感染症名	感染率 (患者数)
1	結核	28.7 (292)	1	結核	30.8 (452)	1	結核	28.4 (744)
2	腸管出血性大腸菌感染症	2.7 (27)	2	腸管出血性大腸菌感染症	1.8 (27)	2	腸管出血性大腸菌感染症	2.1 (54)
3	風疹	1.0 (10)	3	風疹	1.8 (26)	3	風疹	1.4 (36)
3	レジオネラ症	1.0 (10)	4	アメーバ赤痢	1.0 (15)	4	アメーバ赤痢	0.8 (21)
4	アメーバ赤痢	0.6 (6)	5	後天性免疫不全症候群	0.6 (9)	5	レジオネラ症	0.6 (17)
6	ウイルス性肝炎	0.5 (5)	6	梅毒	0.5 (8)	6	梅毒	0.5 (12)
6	クロイツフェルト・ヤコブ病	0.5 (5)	7	デング熱	0.5 (7)	7	後天性免疫不全症候群	0.4 (11)
8	梅毒	0.4 (4)	7	レジオネラ症	0.5 (7)	8	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0.3 (9)
8	急性脳炎	0.4 (4)	9	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0.4 (6)	9	急性脳炎	0.3 (8)
10	A型肝炎	0.3 (3)	10	急性脳炎	0.3 (4)	10	デング熱	0.3 (7)
10	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0.3 (3)				10	クロイツフェルト・ヤコブ病	0.3 (7)

近畿 2 府 4 県			全国		
順位	感染症名	感染率 (患者数)	順位	感染症名	感染率 (患者数)
1	結核	22.0 (4,521)	1	結核	22.9 (28,951)
2	風疹	3.7 (768)	2	腸管出血性大腸菌感染症	3.0 (3,765)
3	腸管出血性大腸菌感染症	2.3 (471)	3	風疹	1.9 (2,391)
4	後天性免疫不全症候群	1.3 (265)	4	後天性免疫不全症候群	1.1 (1,427)
5	アメーバ赤痢	0.8 (157)	5	アメーバ赤痢	0.7 (931)
6	梅毒	0.7 (142)	6	レジオネラ症	0.7 (898)
6	レジオネラ症	0.7 (142)	7	梅毒	0.7 (891)
8	デング熱	0.3 (55)	8	つつが虫病	0.3 (436)
9	ウイルス性肝炎	0.3 (54)	9	急性脳炎	0.3 (361)
10	急性脳炎	0.2 (44)	10	麻疹	0.2 (285)

\*: 順位は患者数が多い順にすべて、上位 10 感染症までを示した。

\*\*：感染率は平成 25 年 4 月 1 日現在の京都府推計人口と総務省統計局の平成 23 国勢調査資料を用いて人口 10 万人あたりの患者報告数として示した。

\*\*\*：患者数は表 1 から再掲した。

表 3. 2012 年の全数把握感染症の保健所別感染率

	保健所別の感染率*																	
	乙訓	山城南	中丹西	山城北	南丹	中丹東	丹後	北	上京	左京	中京	東山	山科	京都市	下京	南	右京	伏見
結核	22.9	45.6	21.5	23.7	32.6	15.7	17.8	30.8	25.3	29.2	25.2	42.7	45.9	34.9	29.4	28.1	33.0	20.4
腸管出血性大腸菌感染症	0.0	1.7	0.0	2.3	1.4	6.6	5.0	1.7	3.6	0.6	10.3	5.0	0.0	0.0	1.0	1.5	1.1	0.7
風しん	1.3	1.7	0.0	0.7	1.4	0.8	0.0	0.0	3.6	3.6	8.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1	0.7
アメーバ赤痢	0.7	0.9	0.0	0.2	1.4	0.0	1.0	0.8	2.4	1.2	1.9	2.5	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
レジオネラ症	0.7	0.0	2.5	0.2	2.1	0.8	2.0	0.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5	0.7	0.7
梅毒	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.8	1.0	0.0	3.6	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.7
後天性免疫不全症候群	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.9	12.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.7
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0
急性脳炎	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
デング熱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	4.7	0.0	0.7	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0

\*：感染率については、表 2 に示した。

以上が全体の約 4 分の 1 であった。現在の高齢者世代は、結核が流行していた時代に青少年期を過ごし、結核の既感染者が多い世代でもあるため、高齢で免疫能が弱まり結核が再燃したと考えられるが、特に男性の感染率が非常に高かった。一方、京都府内の 20 歳未満の患者発生は 1% 以下で、全国同様に若年層の患者発生は非常に少なかった。

無症状病原体保有者は、男女共に 20 歳代後半から 30 歳代半ばまでに多くみられ、60 歳代以降では少なかった。

## 2-2. 腸管出血性大腸菌感染症

EHEC 症の最近 5 年間における京都府の保健所別の感染者数と感染率を表 5 に示し、また、京都府内における EHEC 症感染者数の月別の発生消長を図 3 に示した。感

染者数が春先から夏にかけて増加する傾向は毎年同じであるが、最近では冬季にもわずかではあるが発生がみられるようになった。年齢別にみると、京都府内の感染者は 10 歳代が最も多く、特に発症者割合が多かった。次いで、30 歳代の感染者が多くみられたが、無症状病原体保有者が多かった。

## 2-3. 風しん

2012 年は京都市 26 人、京都府内 10 人、京都府全体で 36 人の報告があり、全国でも 2,391 人と流行の兆しがあった(表 1、6)。京都府内における過去 2 年間の風しん患者数は、2010 年 0 人、2011 年 1 人のみの報告であった<sup>1,2)</sup>。表 6 に示すとおり、2012 年の患者数は 10 歳代~40 歳代の男性に多くみられ、全国の傾向と一致していた。この

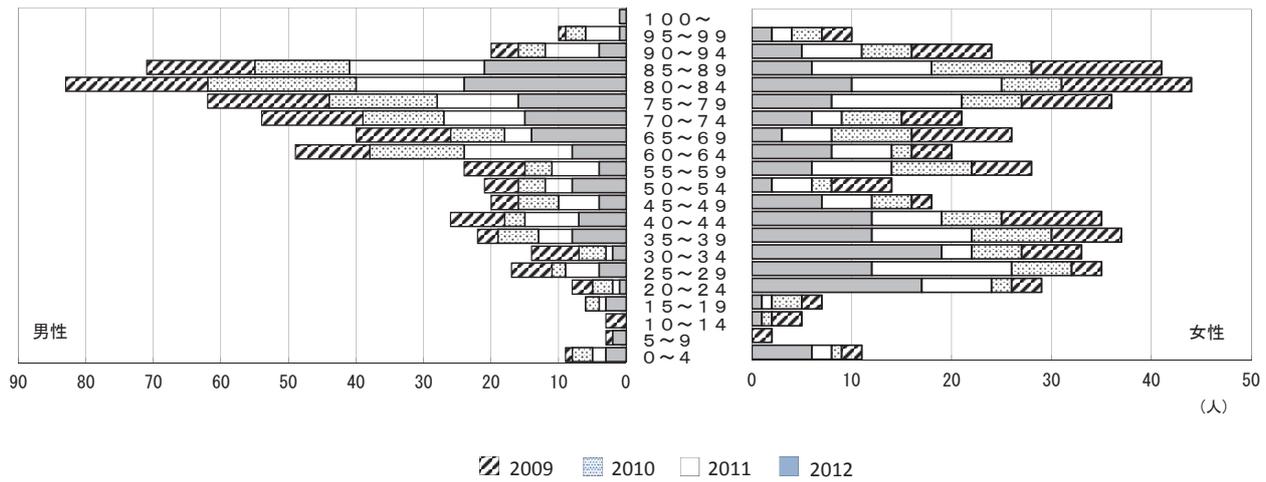


図2. 京都府管轄保健所管内の結核感染者年齢階級別の報告数

表4. 2012年京都府管轄保健所内の結核感染者数及び年齢区分別報告数

年齢階級	結核発症者						無症状病原体保有者					
	京都府 (2012)			全国 (2012年)			京都府 (2012)			全国 (2012年)		
	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数
0~4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (0.2%)	19 (0.2%)	45 (0.2%)	3 (12.0%)	5 (6.4%)	8 (7.8%)	231 (6.9%)	263 (5.2%)	494 (5.9%)
5~9	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	11 (0.1%)	5 (0.1%)	16 (0.1%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	107 (3.2%)	101 (2.0%)	208 (2.5%)
10~14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.1%)	13 (0.2%)	22 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	1 (1.0%)	85 (2.5%)	80 (1.6%)	165 (2.0%)
15~19	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	82 (0.7%)	73 (0.9%)	155 (0.8%)	2 (8.0%)	1 (1.3%)	3 (2.9%)	124 (3.7%)	141 (2.8%)	265 (3.1%)
20~24	1 (0.8%)	3 (3.2%)	4 (2.1%)	287 (2.3%)	261 (3.2%)	548 (2.7%)	0 (0.0%)	13 (16.7%)	13 (12.6%)	200 (6.0%)	527 (10.4%)	727 (8.6%)
25~29	1 (0.8%)	4 (4.2%)	5 (2.6%)	363 (2.9%)	334 (4.1%)	697 (3.4%)	3 (12.0%)	8 (10.3%)	11 (10.7%)	296 (8.8%)	553 (10.9%)	849 (10.1%)
30~34	1 (0.8%)	4 (4.2%)	5 (2.6%)	335 (2.7%)	349 (4.3%)	684 (3.3%)	1 (4.0%)	15 (19.2%)	16 (15.5%)	301 (9.0%)	520 (10.2%)	821 (9.7%)
35~39	4 (3.2%)	2 (2.1%)	6 (3.2%)	463 (3.7%)	323 (4.0%)	786 (3.8%)	4 (16.0%)	10 (12.8%)	14 (13.6%)	327 (9.7%)	514 (10.1%)	841 (10.0%)
40~44	5 (4.0%)	2 (2.1%)	7 (3.7%)	488 (3.9%)	314 (3.9%)	802 (3.9%)	2 (8.0%)	10 (12.8%)	12 (11.7%)	290 (8.6%)	570 (11.2%)	860 (10.2%)
45~49	3 (2.4%)	5 (5.3%)	8 (4.2%)	458 (3.7%)	254 (3.1%)	712 (3.5%)	1 (4.0%)	2 (2.6%)	3 (2.9%)	298 (8.9%)	427 (8.4%)	725 (8.6%)
50~54	5 (4.0%)	0 (0.0%)	5 (2.7%)	527 (4.2%)	212 (2.6%)	739 (3.6%)	3 (12.0%)	2 (2.6%)	5 (4.9%)	237 (7.1%)	431 (8.5%)	668 (7.9%)
55~59	3 (2.4%)	1 (1.1%)	4 (2.1%)	686 (5.5%)	274 (3.4%)	960 (4.7%)	1 (4.0%)	5 (6.4%)	6 (5.8%)	253 (7.5%)	332 (6.5%)	585 (6.9%)
60~64	8 (6.4%)	3 (3.2%)	11 (5.9%)	994 (8.0%)	448 (5.5%)	1442 (7.0%)	0 (0.0%)	5 (6.4%)	5 (4.9%)	254 (7.6%)	292 (5.8%)	546 (6.5%)
65~69	12 (9.6%)	3 (3.2%)	15 (8.0%)	980 (7.9%)	412 (5.1%)	1392 (6.8%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	157 (4.7%)	106 (2.1%)	263 (3.1%)
70以上	80 (64.0%)	36 (37.9%)	117 (61.9%)	6723 (54.1%)	4790 (59.3%)	11513 (56.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	200 (6.0%)	221 (4.4%)	421 (5.0%)
70~74	15 (12.0%)	6 (6.3%)	21 (11.2%)				0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
75~79	16 (12.8%)	8 (8.4%)	24 (12.8%)				0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
80~84	23 (18.4%)	9 (9.5%)	32 (17.0%)				1 (4.0%)	1 (1.3%)	2 (1.9%)			
85~89	21 (16.8%)	6 (6.3%)	27 (14.4%)				0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
90~94	4 (3.2%)	5 (5.3%)	9 (4.8%)				0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
95~101	1 (0.8%)	2 (2.1%)	3 (1.6%)				1 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)			
	125 (100.0%)	95 (100.0%)	189 (100.0%)	12432 (100.0%)	8081 (100.0%)	20513 (100.0%)	25 (100.0%)	78 (100.0%)	103 (100.0%)	3360 (100.0%)	5078 (100.0%)	8438 (100.0%)

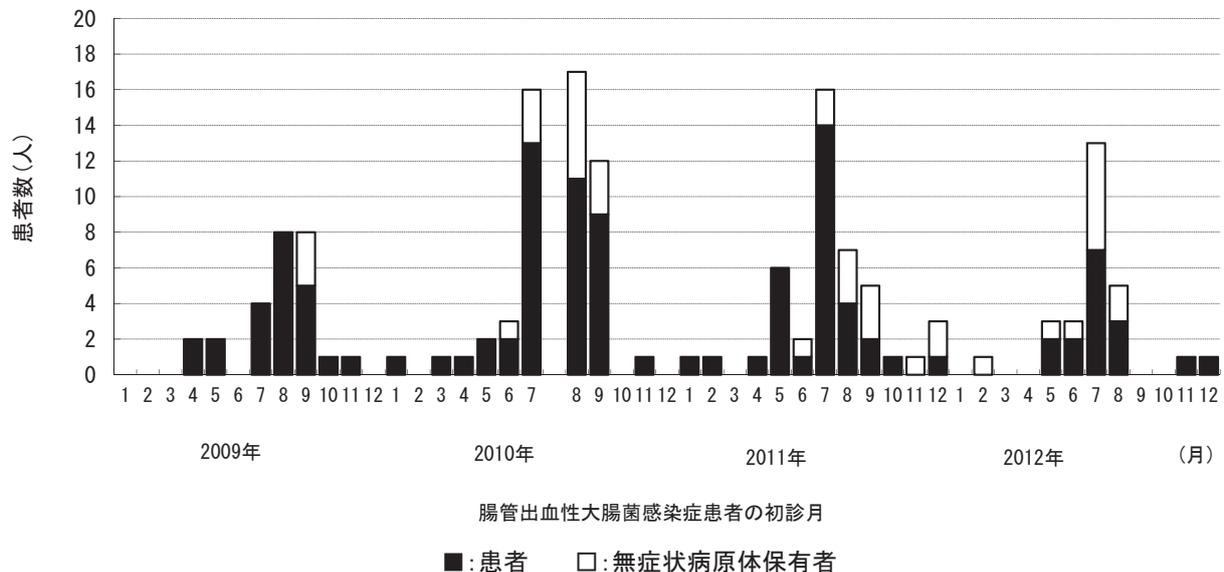


図3. 京都府管轄保健所管内の腸管出血性大腸菌感染症患者の初診月別報告数 (2009年1月~2012年12月)

表 5. 最近 5 年間の京都府保健所別の腸管出血性大腸菌感染症の報告数

報告保健所名		2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年
京都府	乙訓	6 (4.0)	2 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.7)	0 (0.0)
	山城南	1 (0.9)	6 (5.3)	1 (0.9)	3 (2.6)	2 (1.7)
	中丹西	2 (2.5)	2 (2.5)	10 (12.6)	1 (1.3)	0 (0.0)
	山城北	21 (4.7)	9 (2.0)	22 (4.9)	12 (2.7)	10 (2.3)
	南丹	5 (3.4)	2 (1.4)	11 (7.7)	9 (6.4)	2 (1.4)
	中丹東	5 (3.9)	3 (2.4)	6 (4.8)	12 (9.9)	8 (6.6)
	丹後	2 (1.9)	2 (1.9)	4 (4.7)	6 (5.9)	5 (5.0)
京都市	北	4 (3.3)	27 (22.2)	0 (0.0)	3 (2.5)	2 (1.7)
	上京	6 (7.3)	8 (9.7)	2 (2.4)	1 (1.2)	3 (3.6)
	左京	7 (4.2)	11 (6.6)	4 (2.4)	5 (3.0)	1 (0.6)
	中京	12 (11.6)	10 (9.6)	4 (3.8)	8 (7.5)	11 (10.3)
	東山	1 (2.4)	2 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.0)
	山科	4 (2.9)	5 (3.7)	9 (6.6)	5 (3.7)	0 (0.0)
	下京	6 (7.9)	1 (1.3)	6 (7.6)	1 (1.2)	0 (0.0)
	南	28 (28.4)	12 (12.1)	0 (0.0)	4 (4.1)	1 (1.0)
	右京	3 (1.5)	3 (1.5)	0 (0.0)	6 (3.0)	3 (1.5)
	伏見	10 (3.5)	12 (7.9)	4 (1.4)	0 (0.0)	3 (1.1)
西京	5 (3.3)	2 (0.7)	5 (3.3)	1 (0.7)	1 (0.7)	
京都府内		42 (3.6)	26 (2.2)	54 (4.6)	44 (3.8)	27 (2.3)
京都市		86 (5.86)	93 (5.48)	34 (2.31)	34 (1.30)	27 (1.84)
京都府全体		128 (4.86)	119 (4.16)	88 (4.86)	78 (0.38)	54 (2.06)
近畿 2 府 4 県		626 (3.00)	592 (2.84)	681 (3.00)	482 (0.38)	471 (2.29)
全国		4,322 (3.38)	3,886 (3.05)	4,131 (3.38)	3,938 (3.12)	3,765 (2.98)

京都府内は、京都市以外の京都府内保健所からの報告数を示す。

( ) 内は感染率で、当該年度 10 月 1 日現在の推定人口を用いて、対人口 10 万人あたりの感染者数を示す。

表 6. 2012 年 京都府管轄保健所の風しん患者数

年齢階級	京都府						全国					
	男性		女性		総数		男性		女性		総数	
	報告数	感染率	報告数	感染率	報告数	感染率	報告数	感染率	報告数	感染率	報告数	感染率
10 歳未満	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	58	0.03	64	0.10	122	0.05
10 代	1	(0.10)	1	(0.50)	2	(0.20)	163	0.09	110	0.18	273	0.11
20 代	3	(0.40)	0	(0.00)	3	(0.30)	496	0.27	245	0.41	741	0.30
30 代	2	(0.30)	0	(0.00)	2	(0.20)	608	0.33	73	0.12	681	0.28
40 代	2	(0.30)	1	(0.50)	3	(0.30)	385	0.21	44	0.07	429	0.17
50 代	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	76	0.04	48	0.08	124	0.05
60 代	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	8	0.00	11	0.01	19	0.00
70 歳以上	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	2	0.00	0	0	2	0.00
	8	(1.00)	2	(1.00)	10	(1.00)	1,796	(1.00)	595	(1.00)	2,391	(1.00)

感染率は人口 10 万人あたりの感染者数とし、年齢階級別人口は平成 23 年度国勢調査結果を用いた。

表 7. 京都府内のアメーバ赤痢感染者 28 人の概要 (2008 年～2012 年)

患者所見	人数 (発生割合)	患者所見	人数 (発生割合)
年齢階級		病型	
10 代	0 (0%)	腸管アメーバ症	25 (89%)
20 代	1 (4%)	腸管外アメーバ症	2 (7%)
30 代	2 (7%)	腸管及び腸管外アメーバ症	1 (4%)
40 代	8 (29%)	臨床症状	
50 代	11 (39%)	下痢	15 (54%)
60 代	3 (11%)	粘血便	12 (43%)
70 歳以上	3 (11%)	しぶり腹	3 (11%)
性別		鼓腸	2 (7%)
男性	26 (93%)	腹痛	11 (39%)
女性	2 (7%)	発熱	5 (18%)
感染地域 (推定)		肝膿瘍	3 (11%)
国内	22 (79%)	腹膜炎	1 (4%)
国外	6 (21%)	便潜血陽性	4 (14%)

表 8. 京都府内のレジオネラ症 32 人の概要 (2008 年～2012 年)

患者所見	人数 (発生割合)	患者所見	人数 (発生割合)
病型		臨床症状	
肺炎型	32 (100%)	発熱	31 (97%)
年齢階級		肺炎	31 (97%)
40 代	1 (3%)	咳嗽	18 (56%)
50 代	6 (19%)	呼吸困難	16 (50%)
60 代	9 (28%)	腹痛	0 (0%)
70 代	9 (28%)	下痢	0 (0%)
80 代	4 (13%)	意識障害	3 (9%)
90 代	3 (9%)	多臓器不全	1 (3%)
性別		発生時期	
男性	24 (75%)	3 月～5 月	4 (13%)
女性	8 (25%)	6 月～8 月	12 (38%)
感染経路 (推定)		9 月～11 月	8 (25%)
水系	9 (28%)	12 月～2 月	8 (25%)
不明	23 (72%)		

流行は定期予防接種を受けていない世代との関連性が原因とされており、妊婦への影響が大きいことから、男性も含めた予防接種が勧奨されている。

#### 2-4. アメーバ赤痢

2008年から2012年に報告された京都府内のアメーバ赤痢感染者28人（最近は2012年6人、2011年4人）の病状等の概要を表7に示した。感染者の多くは男性であり、特に40歳代と50歳代が多かった。推定感染地域は、国内22人、海外6人と推定され、病型は腸管アメーバ症が多かった。また、臨床症状を示さない不顕性感染者は6人であった。

#### 2-5. レジオネラ症

2008年から2012年に報告された京都府内のレジオネラ症感染者32人（最近は2012年10人、2011年4人）の病状等の概要を表8に示した。男性感染者の報告数は24人であり、女性の3倍であった。また、病型はすべて肺炎型患者であった。発生時期は、6月から8月が最も多かった。京都府内で感染経路が特定できた9事例は、

入浴施設利用など水系感染が疑われた。

### 謝 辞

患者情報収集にご尽力いただきました医療機関ならびに保健所の皆様に深謝します。

### 引用文献

- 1) 中山淳一郎, 真田正稔. 2012. 2011年感染症発生動向調査(患者発生動向) - 全数把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 55, 36-43.
- 2) 棟久美佐子, 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫, 岡嶋 伸嶋. 2009. 京都府の麻しん患者の発生状況(2008年) - 感染症発生動向調査 - 京都府保健環境研究所年報, 54, 30-33.
- 3) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2011. 2010年感染症発生動向調査(患者発生動向) - 全数把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 56, 32-40.
- 4) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2010. 京都府感染症情報センター 感染症発生動向調査(2009年) - 全数把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 55, 41.